

この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
取り付けに関しましては、メーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書の指示に従って作業を行って下さい。作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行って下さい。
このマフラーは、1400GTR (ZGT40A/C/E)用となっております。その他の機種(車両型式・年式)には取り付けられません(車検を受けられません)のでご注意下さい。取り付け作業に関して、ご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。

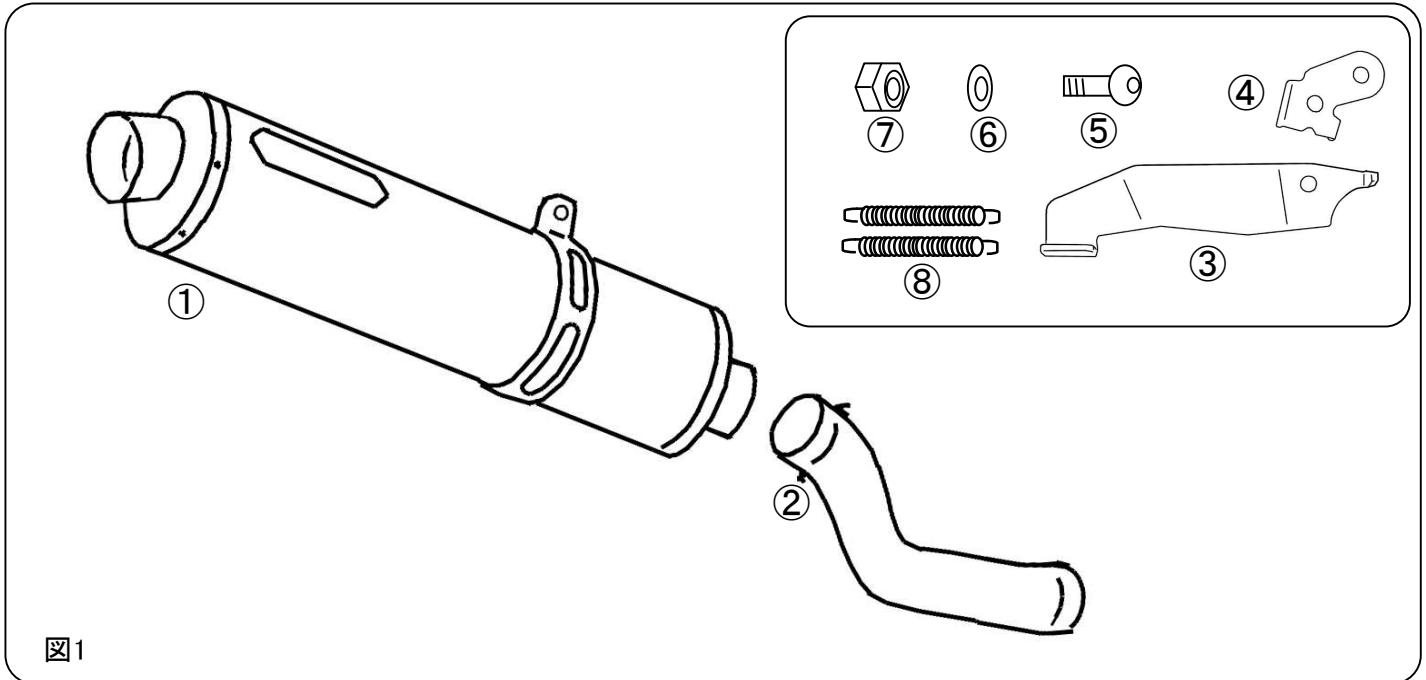


図1

①純正サイレンサーの取り外し

純正サイレンサーを取り外します。(マフラー・その他純正パーツの脱着作業に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従って下さい。)サイレンサー取り外しの際の純正ボルト・ナット類の一部は当製品取り付けの際に使用しますので無くさない様ご注意下さい。

パーツリスト(梱包内容)

図番	パーツ名	数量
①	サイレンサー	1
②	テールパイプ	1
③	センタースタンドストッパー	1
④	サイレンサーバンドブラケット	1
⑤	ボルト ボタンキャップ M10-20	1
⑥	ワッシャー M10	1
⑦	ナット M10(セルフロック)	1
⑧	スプリング	2

②センタースタンドストッパーの取り付け

右ステップブラケットの近くにある純正マフラー固定箇所の内側に、純正のボルトナットを使用してセンタースタンドストッパーを取り付けます。

(図2黒矢印参照)

次に、純正マフラーに挿入されているストッパーラバーを、センタースタンドの穴に取り付けます。

(図2白矢印参照)

③テールパイプの取り付け

純正の集合パイプにテールパイプを奥まで差し込み、純正のクランプ(バンド)を用いて差し込み部を仮留めします。ジョイントガスケットは必ず新品をご使用下さい。

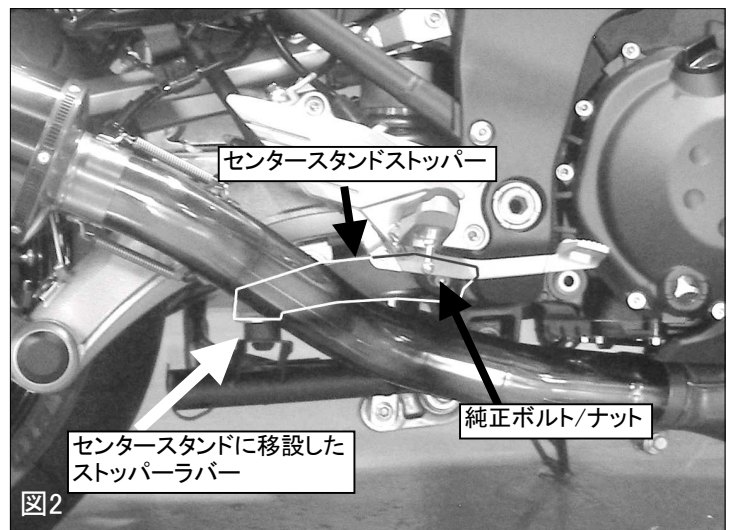


図2

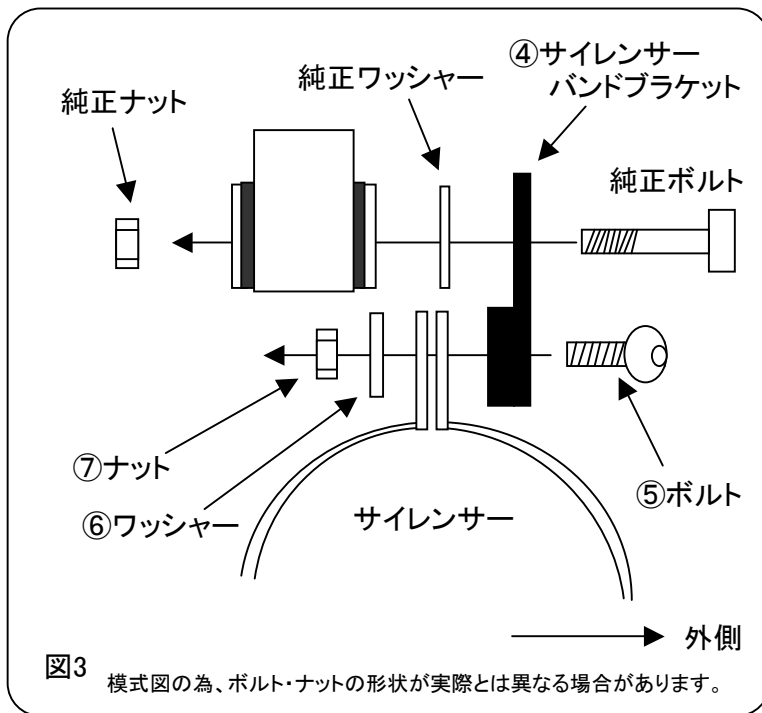
④サイレンサーの取り付け

サイレンサーバンドにバンドゴムを組み付け、肉抜きのない部分が内側になる様にサイレンサーにサイレンサーバンドを通します。

付属のボルト/ワッシャー/ナットを用いてサイレンサーバンドにサイレンサーバンドブラケットを仮留めし、テールパイプにサイレンサーを差込んでスプリングを掛け、サイレンサーバンドの位置決めをします。

続いて、純正のボルト/ワッシャー/ナットを用いて純正ブラケット部にサイレンサーバンドブラケットを仮留めします(図3参照)

マフラー各部に無理が掛かっていない事、車体各部と干渉がなくサイレンサーが揺れた場合も十分なクリアランスがある事を確認し、必要があれば調整を行った後、仮留めしたボルトナット及びジョイントパイプ部のクランプを本締めします。各部の締め込み具合により車体とのクリアランスが変化する場合がありますので、注意しながら作業を行って下さい。



⑤最終確認

以上で取り付け作業は終了です。マフラーに付着した汚れをよく拭き取った上でエンジンを始動し、排気漏れ等がない事を確認し、必要があれば修正を行って下さい。

⑥セッティングについて

このマフラーはすべてスタンダードの状態では性能を発揮するよう設計されております。

※手の脂等が残ったまま熱が加わると、焼けムラの原因になります。事前に十分脱脂を行って下さい。
※サイレンサー表面はコンパウンド等で磨くと色落ちや磨きキズの原因になりますのでご注意下さい。

※注意！

走行中・走行後のマフラーは非常に高温になります。火傷や衣類/靴等の損傷には十分お気をつけ下さい。
又、この車両は排気ガスを浄化する目的で集合パイプ内に触媒(キャタライザー)を使用しております。
触媒を使用していない従来のマフラーよりも更に温度が高くなりますので、より一層の注意をお願いします。

● グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合があります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブラせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発→排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)

グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。

- 走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気をつけ下さい。
- お手入れにはパーツクリーナー・中性洗剤等をご使用下さい。ケミカル類は事前に目立たない箇所ですり試した上でご使用下さい。
- 転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メール等にて下記までお問合せ下さい。
- 本製品は排ガス浄化装置として純正マフラーの触媒をそのまま用いており、その内容を表記した書類を付属しております。車検時に必要となる場合がございますので無くさないように注意して保管してください。同書類の再発行等に関しては別途お問合せ下さい。

NOJIMA ENGINEERING

〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉町7265-7 TEL:059-378-3505 FAX:059-370-7811

WEB: <http://www.nojima-japan.co.jp> MAIL: info@nojima-japan.co.jp

NT630S
161020